

令和7年度岩手県環境保健研究センター研究評価委員会の評価結果

1 目的

成果を重視した効果的・効率的な試験研究の推進を図るため、「岩手県試験研究評価ガイドライン」及び「岩手県環境保健研究センター機関評価及び研究評価実施要領」に基づき、研究評価を実施し、研究計画の変更や見直し等に活用する。

2 開催日時等

- (1) 日時：令和7年11月28日(金) 13:30～14:30
- (2) 場所：岩手県環境保健研究センター 大会議室

3 評価対象研究課題

1 題（事前評価 1 題）

4 評価基準

	A	B	C
【事前評価】 (新規課題に対して実施)	重要な課題であり、優先的に取り組む必要がある	有用な課題であり、早期に取り組む必要がある	解決すべき問題等があり、今後の検討を必要とする

5 評価協議会構成員

氏名	所属等
坂田清美	学校法人岩手医科大学名誉教授 公益財団法人岩手県予防医学協会 予防医学部長
石川奈緒	国立大学法人岩手大学農学部 教授
渋谷晃太郎	公立大学法人岩手県立大学 研究・地域連携本部 シニア・フェロー
久保山裕史	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 東北支所 産学官民連携推進調整監
村上賢二	国立大学法人岩手大学獣医学部 教授
小林正信	地方独立行政法人岩手県工業技術センター 理事兼地域産業技術統括部長

6 評価対象課題の研究内容と評価結果（事前評価）

研究課題	1 未規制化学物質による環境リスク解明に向けた統合的スクリーニング・評価手法の開発（R8-R10）
研究目的・背景	これまで実用化されていなかった、高極性化学物質用スクリーニングデータベースを開発し、より広範な化学物質の環境残留実態を把握するとともに、取得した精密質量データの解析技術を高め、未規制化学物質による環境リスクの解明と、環境負荷低減に繋げる。
研究内容	<p>本研究では、LC-QTOFMS と HILIC カラムを用いた高極性化学物質用の自動同定定量システム（AIQS-HILIC）の測定実装に向けた DB と前処理法の開発（研究①）、測定データと生物応答試験の統計処理による、リスク物質抽出のための解析技術の確立（研究②）などで、より包括的に化学物質の環境リスク評価を行うとともに、リスク物質の環境負荷低減に向けた処理方法の検討（研究③）を行う。</p> <p>【研究計画】</p> <p>《令和8年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究①：AIQS-HILIC DB 開発、HILIC 向け水質前処理方法の検討、室間共同分析 ・研究②：生物応答試験結果と QTOF データの統計解析手法検討 ・研究③：リスク物質低減化処理による分解生成物のスクリーニング（主に PFAS） <p>《令和9年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究①：HILIC DB の環境測定適用可能性検討（県内河川4地点程度） ・研究②、③：②の生物影響が疑われるピークや、③のリスク物質の処理により発生した分成物ピークのうち、未知物質についてノンターゲット解析により候補構造を推定リスク疑い物質及び候補構造について毒性評価（文献及び構造活性相関モデルによる毒性予測値の収集） <p>《令和10年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究①：確立した HILIC 手法を含めた、AIQS-DB による広範な環境残留化学物質のスクリーニングとリスク評価（県内河川4地点程度、シーズン毎） ・研究②、③：共同研究相手方の状況を加味して引き続き検討実施 <p>【研究費(概算)】</p> <p>R 8 : 1,323千円、R 9 : 1,330千円、R 10 : 1,330千円</p>
評価結果	<p>○総合評価：A（4人）、B（1人）、C（0人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有用な課題であり、取り組む意義があると認める。 ・環境中の未規制化学物質のリスク評価は極めて重要と思いますが、対外的には数万種の新規化学物質の中から重要性や緊急性

	<p>の観点から絞り込む過程をわかりやすく説明する必要があると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、有機フッ素化合物のようにこれまで規制されていない化学物質が環境を汚染し人への移行まで問題となっているケースが報告されている。様々な化学物質の分析法やその毒性評価について本研究で得られる成果は貴重であり、県の環境を守るという点でも重要である。 ・これまで成果を上げてきていることから、外部資金との連携等によって一層の成果をあげられることを期待する。 ・本研究グループは前身研究で AIQS-LC システムを構築し、それを利用して中極性化学物質の検出に成功している。本研究課題はその実績に基づいて提案されており、目標とした研究成果が得られる可能性は高いと思われる。
<p>センターの対応方針</p>	<p>1 研究計画のとおり実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 一部見直しの上実施 3 今後再検討 4 実施しない <p>本研究は、環境水に含まれる未規制化学物質を幅広く把握し、そのリスクを解明することで環境負荷を低減し、県民の健康と環境を守ることを目的とする。</p> <p>環境リスク評価の先進技術を有することは、本県の環境施策に対する信頼性を高めるとともに、河川環境の保全は将来に向けた大切な投資であり、いわて県民計画(2019-2028)に掲げる政策方向(42 多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぎます。)に合致する。</p> <p>引き続き、研究協力機関との役割分担を整理しながら、重要性緊急性の高い物質を選定し、年度毎の目標を明確化することで効率的に研究を推進する、また成果の社会還元や学会等への発表にも取り組んでいく。</p>